

生命科学・医学系研究実施のお知らせ

東京慈恵会医科大学倫理委員会の審査を受け、以下の研究を実施しております。

本研究に関する内容の詳細等、お知りになりたい方は下記【問い合わせ先】までご連絡ください。なお、試料・情報が本研究に用いられることについて、研究の対象となる方（もしくは代理人の方）にご了承いただけない場合は研究対象から除外いたしますので、下記【問い合わせ先】までお申し出ください。

【研究課題名】	Advanced Maternal Age 間における年齢別周産期予後に関する後方視的観察研究		
1. 研究の目的と方法	<p>近年、多くの先進国で女性の初産年齢が上昇しており、特に 35 歳以上での出産、すなわち Advanced Maternal Age (AMA) が増加しています。AMA での妊娠は若年での妊娠に比べて、妊娠高血圧症候群や糖尿病、前置胎盤、帝王切開をはじめとした母体・周産期合併症のリスクが高くなることが報告されています。これらのリスクは母体の年齢が上がるにつれて顕著になるとされておりますが、35 歳以上の様々な年齢層でリスクの程度や特性にどのような違いがあるのか、具体的なデータはまだ不足している状況です。</p> <p>今回、35 歳以上の高齢出産女性を対象にして、35-39 歳、40-44 歳、45 歳以上の 3 つの年齢層に分け、これらの層間で母体・周産期合併症のリスクがどのように異なるかを後方視的に比較・分析を行い、どのような違いが生じるかを明確にします。今後益々進んでいくであろう高年出産に対し、より適切な予防策や介入策を提供できるようにするのが目的です。</p>		
2. 研究期間	倫理委員会承認日～2029 年 3 月 31 日まで、研究の実施を予定しています。		
3. 対象となる方等	2019 年 1 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日までの間に、東京慈恵会医科大学附属病院で分娩を行なった、分娩日時点で 35 歳以上の方が対象です。		
4. 研究に利用する試料・情報について	(1) 試料の種類	試料は使用しません。	
	(2) 試料の取得の方法	試料は使用しないため、該当しません。	
	(3) 情報の種類	研究対象者の基本情報：生年月、分娩時年齢、既往歴 周産期・母体合併症 分娩時情報：分娩週数、分娩様式、帝王切開術の適応、分娩時間、分娩時出血量、分娩時異常出血、児の基本情報	
	(4) 情報の取得の方法	診療録から診療時のデータを収集します。	
5. 研究の実施体制	あなたの試料・情報は、以下の研究者が研究のために利用します。 試料・情報は、(3)の管理責任者が責任をもって、保管・管理します。		
	(1) 当施設の 研究責任者 または研究 代表者	研究機関名	東京慈恵会医科大学 産婦人科学講座
		氏名	濱田 倫太郎
	(2) 当施設の長	東京慈恵会医科大学 学長 松藤千弥	
(3) 当施設の 試料・情報の 管理責任者	東京慈恵会医科大学 産婦人科学講座 助教 濱田 倫太郎		

	(4) 共同で研究を実施する施設とその責任者	この研究では共同で研究を実施する機関はありません。
6. 試料・情報を他機関とやり取りすることについて	この研究では、外部の機関と試料・情報をやり取りすることはありません。 情報の利用開始予定日：2024年7月頃～を予定しています。	
【問い合わせ先】	機関名：東京慈恵会医科大学 産婦人科学講座 研究責任者 濱田 倫太郎（はまだ りんたろう） 附属病院本院：03-3433-1111（3521） 対応時間：午前9時～午後4時／休診日を除く	

※利用する情報等からは、お名前、住所、電話番号、カルテ番号など、個人を特定できる情報は削除いたします。
研究成果を学会や論文で発表する際も個人が特定できる情報は利用いたしません。